

### 第三者評価結果

事業所名：障がい者支援施設 たんぽぽの家

#### A-1 利用者の尊重と権利擁護

| A-1-(1) 自己決定の尊重   | 第三者評価結果 |
|---|---------|
| <p>【A1】 A-1-(1)-①<br/>利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。</p>   | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p>   |         |
| <p>利用者一人ひとりに担当職員を配置し、生活面全般の支援を行う中で、信頼関係を構築している。また、日常生活の中で、本人の意思や希望を確認するよう取り組んでいる。外出を希望する方は、おやつ外出など外出する機会を作り、利用者の励みになるよう支援している。利用者面談や日々の支援、家族の希望を取り入れ、個別の支援を実施している。日中活動は、その人らしい生活を考え「横断的支援」と位置付け、6つの階層別の支援グループが活動している。利用者の意向やADLの変化などにより、所属グループは必要に応じて変更し、お試しでの移動など、段階を踏んだ対応もしている。利用者一人ひとりの個性を尊重したグループ活動の提供に努めている。自宅に一時帰宅する利用者は、家族の意向を確認し、個別支援計画に反映している。個別支援計画の策定時には、本人、家族、サービス管理責任者、担当職員が参加し、面談を実施している。</p> |         |
| A-1-(2) 権利擁護  | 第三者評価結果 |
| <p>【A2】 A-1-(2)-①<br/>利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。</p>   | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p>   |         |
| <p>拘束ガイドラインや虐待指針を整備して対応している。権利擁護の取り組みは事業計画書に明記し、保護者とも読み合わせを行っている。各棟に権利擁護に関する標語を掲示し、毎朝の引き継ぎ時に読み合わせを行っている。標語は2ヶ月に1回変更して、職員に意識付けを行っている。また、福祉新聞に掲載された虐待などの記事は、全職員に周知して、内容を共有している。権利・虐待・拘束防止委員会により、年2回、権利擁護の内部研修を開催している。スピーチロック「動かないで」など、利用者にストレスがかかる言動も拘束のひとつと捉え、それにあたる声掛けをなくす取り組みもしている。役職者による施設内巡回を行い、権利侵害の防止や早期発見に努めている。権利侵害やアクシデントについては、ヒヤリハットを収集して、原因の確認を行い、改善に取り組んでいる。</p>                                 |         |

#### A-2 生活支援

| A-2-(1) 支援の基本  | 第三者評価結果 |
|--|---------|
| <p>【A3】 A-2-(1)-①<br/>利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。</p>   | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p>  |         |
| <p>サービス管理責任者を中心に、利用者一人ひとりのストレンクス（強み）や得意なこと、苦手なことをアセスメントで抽出し、個別支援計画の策定につなげている。個別支援計画は半年ごと（新規の入所者は1カ月後）にモニタリングを行い、内容を見直している。入院など状態に変化があった際には、随時、退院後にカンファレンスを行い、更新している。変化のあったところを赤字で記入し、支援のポイントとして職員間で共有している。利用者の苦手とすることを職員間で捉え直し、ストレンクスを活かす取り組みを行っている。日常生活の自立に向け、担当職員が一人ひとりの状態を把握し、一日の流れを事前に説明して、利用者がスケジュールの自己管理を行えるよう支援している。必要とする行政の手続きや生活関連サービスなどは、相談員が調整して支援している。</p> |         |
| <p>【A4】 A-2-(1)-②<br/>利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。</p>   | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p>  |         |
| <p>意思決定支援の取り組みを行い、個別支援計画の策定の過程に取り入れている。意思表示や伝達が困難な方に対して、日々の関わりの中で、表情や行動の変化を読み取るようにしている。複数の職員で対応し、より本人の意思に近づけるよう努めている。利用者の言動は日常の記録に残し、職員間で共有している。発語が難しい方には、絵カードやサイン表を使用したり、ジェスチャーで対応している。重度の方や発語が難しい方には、利用者同士が気遣い、職員に本人の意思を伝えてくることもある。家族とのコミュニケーションも図るよう努めている。</p>  |         |

|  |   |
|--|---|
| 【A5】 A-2-(1)-③<br>利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。 | a |
|--|---|

<コメント>

役職者による男性棟や女性棟の巡回や、生活担当職員の配置により、利用者が意見や思いを表出しやすい環境作りに努めている。汲み取った利用者の思いは記録に残し、職員間で共有している。「きいてきて」という掲示物や、意見箱を2ヶ所設置している。また、月1回、「たんぼぼ委員会」を開催して、利用者が活発に活動している。利用者から出された意見は、夏まつりのメニューなどに反映している。利用者からの相談内容は、ブルーオーシャンの介護ソフトで職員間で共有している。また、半年に1回の定期カンファレンス時には、利用者が参加し、意見や意向を個別支援計画に反映できるようにしている。

|  |   |
|--|---|
| 【A6】 A-2-(1)-④<br>個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。 | a |
|--|---|

<コメント>

アセスメントにより、利用者一人ひとりの状態像とニーズを把握し、運動や軽作業など、利用者に合わせた日中活動を提供をしている。週1回、外部講師の協力を得て、サークル活動も行っている。コーラスや新舞踊、絵画、軽運動、トレーニング、工作など、さまざまなサークル活動を提供している。利用者の意向を確認して、所属サークルを決定している。月1回のたんぼぼ委員会での意見や、利用者の希望を聞き、来年度のサークル活動で何を行うかを検討している。施設内に、正月の書き初めの作品などを展示している。

|   |   |
|---|---|
| 【A7】 A-2-(1)-⑤<br>利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。 | a |
|---|---|

<コメント>

支援の専門性の向上を目指し、職員に実務者研修の受講を推奨し、半数以上の職員が介護福祉士の国家資格を取得している。新人職員には、支援マニュアルに沿って、障がいへの理解に取り組んでいる。職員は外部研修や法人内の内部研修に参加し、新しいことや技術などを学び、研修報告を行って職員間で情報を共有している。年度末には、担当引継書を作成し、次の職員が同じように支援できるようにしている。不適切な行動を防止するため、死角での対応や、一対一の対応にならないよう留意している。利用者が不安定になった時は、個人の部屋などを利用し、安全にクールダウンできる対策に努めている。どのような対応で落ち着いたかなど記録に残し、ケース検討を行い、支援方法の見直しを行っている。

|                  |         |
|------------------|---------|
| A-2-(2) 日常的な生活支援 | 第三者評価結果 |
|------------------|---------|

|  |   |
|--|---|
| 【A8】 A-2-(2)-①<br>個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。 | a |
|--|---|

<コメント>

管理栄養士による嗜好調査（食事に関するアンケート）を行い、具体的にイラストを使うなど工夫して、献立に反映している。「日本どんぶり街道」として、各都道府県のご当地丼を提供し、利用者の満足につなげている。また、誕生日には、ケーキや希望するメニューを提供している。年2回、嗜好調査も実施している。ブルーオーシャンの介護ソフトに利用者の嗜好を記録し、情報を共有している。誤嚥リスクの高い利用者には、個別の手順書を作成し、職員間で統一した支援を行うようにしている。誤嚥やむせ込み、咀嚼など、嚥下の状態を観察し、訪問歯科医と連携を取りながら、嚥下の判定を行い、食事形態の見直しを行っている。入浴は、介護マニュアルや入浴支援マニュアルにて支援している。一般浴やシャワー浴など、利用者の状態に応じて入浴を支援し、希望者は週3回入浴している。入浴の際は、ボディチェックを行い、事前に引継ぎを行い、血圧の値など些細なことでも相談して対応を決めている。排泄については、カーテンを設置し、プライバシーに配慮して支援を行っている。利用者同士話し合い、排泄のリズム作りにタイマーを活用するなど工夫して、支援を行っている。

|              |         |
|--------------|---------|
| A-2-(3) 生活環境 | 第三者評価結果 |
|--------------|---------|

|   |   |
|---|---|
| 【A9】 A-2-(3)-①<br>利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。 | a |
|---|---|

<コメント>

利用者は主に2人部屋で生活している。生活担当職員を中心に、居住空間の整備を行っている。利用者が望む生活に合わせ、テレビや音楽プレーヤーを設置したり、外出時の写真を飾るなど、利用者が望む空間を大切にしている。カーテンや仕切りの組み合わせを工夫して対応している。コロナ禍では、テレビを見たり、居室で過ごす時間が増え、生活面での変化がみられている。ぬり絵やドリル、自由帳など好きなことができるように、担当職員が支援を行っている。嗜好品をインターネットを利用して購入することを楽しみにしている方もいる。園内の壁面には、季節に合わせたクリスマスツリーなどの装飾や利用者の作品を掲示し、明るく温かみのある雰囲気づくりに努めている。

|   |         |
|---|---------|
| A-2-(4) 機能訓練・生活訓練   | 第三者評価結果 |
| 【A10】 A-2-(4)-①<br>利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。  | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>相談員や看護師が、医師と連携を取り、身体機能維持や向上を目指した取り組みを行っている。日常生活の中で、車椅子から椅子までの移乗の動作支援を行ったり、骨折から回復された方の膝上げ運動を支援している。高齢化による可動域の変化を考え、利用者全員を対象にラジオ体操を実施している。また、日中活動の中で、自転車漕ぎなどの取り組みも行っている。若く体力が十分ある方に対しては、近隣の高校の周りを走るなど、体力を発散できる取り組みを行っている。雨の日には、YouTubeなどを活用し、それぞれに合わせた運動を行っている。また、キャラクターの映像を流し、動きをまねしてみることで意欲を高める取り組みも行っている。</p>   |         |
| A-2-(5) 健康管理・医療的な支援   | 第三者評価結果 |
| 【A11】 A-2-(5)-①<br>利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。   | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>朝夕の健康チェックとして、バイタル測定や身体チェック、表情や排泄の状況を確認している。身体チェックでは、身体のアザやケガの有無、皮膚の状態などを細かく観察している。毎月、体重測定を行い、ブルーオーシャンの介護ソフトに記録している。また、一人ひとりのバイタルの平均値を記録し、体調不良時に迅速な対応ができるようにしている。高齢化が進み、半数以上が重度高齢利用者となる中、言葉での訴えが困難な方もいるため、状態が悪くなる前に看護師に報告し、必要に応じて医療機関につなげていくよう努めている。医務課には3名の看護師を配置して対応している。月1回、内科医と歯科医の訪問診療があり、嘱託医も配置している。症状別対応マニュアル（発熱、出血、嘔吐、誤嚥、呼吸困難、意識障害、心肺停止など）を整備し、各職員が緊急時に適切な対応が行えるようにしている。緊急時及び感染対策マニュアルなどについても各職員室に整備している。</p>                                   |         |
| 【A12】 A-2-(5)-②<br>医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。  | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用者にケガや体調不良がみられた場合は、看護師に報告し、必要に応じて医療機関を受診している。日々の支援の中で医師、看護師と連携を取り、インスリン注射を必要とする方に対しては見守りを行い、バルーンカテーテルを留置している方の排泄ケアや感染予防を支援している。服薬については、服薬マニュアルに基づき管理を行い、複数の職員でチェックしている。服薬状況については、ケースの中の薬の数、誰が飲ませたのかなどをチェック表に記録している。薬ケースの色分けや配薬、服薬のダブルチェックを行い、服薬の際はきちんと座った姿勢で介助し、落薬や誤薬の防止に努めている。落薬や誤薬が発生した場合は、事故報告書に記録を残し、振り返りを行い、再発防止の対策を行っている。アレルギーなどの疾患のある方は、定期的に受診し、経過を記録して職員間で共有している。処方箋については、医務課で管理している。食事のアレルギーについては、医師と栄養士の連携による食事箋により、形態がより細かく分かるようにしている。</p> |         |
| A-2-(6) 社会参加、学習支援   | 第三者評価結果 |
| 【A13】 A-2-(6)-①<br>利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。   | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>地域に出て行くことを社会参加のひとつとしている。利用者の外出の希望には職員が対応し、外出の機会を多く持てるようにしている。大きな行事には、地域のボランティアに参加してもらい、利用者との交流を行い、たんぼぼの家を地域の方知ってもらう機会としている。近隣の田名高校の文化祭では、たんぼぼの家の自主製品の販売を行い交流している。市役所通りに法人アンテナショップ「豆子の店」があり、利用者が交代で自主製品の販売に参加している。地域の方々と交流を持つ経験を重ね、社会参加への意欲が高まるよう取り組んでいる。「漢字検定にチャレンジしてみたい」「パソコンを操作したい」などの希望に対して、教師の資格を持つ職員による学習支援の取り組みや、使い方、タブレットの操作、インターネットなど希望に合わせ、工夫しながら支援を行っている。ドリルなどを選び、取り組んでいる方もいる。新聞も4名の利用者が購読している。</p>  |         |
| A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援  | 第三者評価結果 |
| 【A14】 A-2-(7)-①<br>利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。   | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>一人暮らしや個室が欲しいなど希望される利用者がある。本人の意向を確認しながら、個別支援計画に反映し、自立に向けた支援を行っている。自立に向けて、本人の状態や情報の提供を行い、課題を共有して、本人とともに取り組みを行っている。法人内のグループホーム（市内17ヶ所）及び他事業所への見学や体験を行い、将来のイメージが持てるよう支援をしている。施設の3階には、1LDKの自立に向けた生活訓練の部屋を整備している。法人内の作業所で日中活動を行う場合は、送迎を支援している。グループホームの職員とは、情報の共有を行い、連携を取っている。施設がグループホームのバックアップとしての機能もある。</p>   |         |

|  |         |
|--|---------|
| A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援  | 第三者評価結果 |
| 【A15】 A-2-(8)-①<br>利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。  | a       |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用者の心のよりどころである家族の支援も、ともに行っていかなければいけないと捉えている。月1回、担当職員が家族に連絡し、利用者の様子を伝え、状況を共有している。手作りの広報誌「福祉村だより」も家族に送付している。状況の変化など必要に応じて、その都度、連絡を取っている。また、緊急時には緊急時対応マニュアルに沿って連絡を取り対応している。夏まつりやクリスマスなどには家族を招待し、利用者一緒に楽しんでもらう場を設けている。担当職員だけではなく、家族がいろいろな職員と交流を持てる場にもなっている。</p> |         |

### A-3 発達支援

|  |         |
|--|---------|
| A-3-(1) 発達支援   | 第三者評価結果 |
| 【A16】 A-3-(1)-①<br>子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。          |         |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>障がい者の施設入所支援、生活介護の事業所のため、評価外とする。</p> |         |

### A-4 就労支援

|  |         |
|--|---------|
| A-4-(1) 就労支援   | 第三者評価結果 |
| 【A17】 A-4-(1)-①<br>利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。             |         |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>障がい者の施設入所支援、生活介護の事業所のため、評価外とする。</p> |         |
| 【A18】 A-4-(1)-②<br>利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。       |         |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>障がい者の施設入所支援、生活介護の事業所のため、評価外とする。</p> |         |
| 【A19】 A-4-(1)-③<br>職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。         |         |
| <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>障がい者の施設入所支援、生活介護の事業所のため、評価外とする。</p> |         |